

歌詞から音楽を表現する

～第2学年 音楽科「夕やけこやけ」の実践から～

山口大学教育学部附属山口小学校 石田 千陽


1 はじめに

これまでの学習の中で、歌詞の表す情景や気持ちに着目し、仲間と声を合わせて歌う楽しさを味わってきました。このような子どもたちが、感じ取った曲想を基に、歌詞の表す情景や気持ちから、表現を工夫する学習に取り組むことで、歌う楽しさを味わったり、自分の表現に自信をもったりすることにつながるだろうと考え、この題材を実践しました。音楽的な見方・考え方を働かせながら、音楽を楽しみ、自分のイメージを豊かに広げていく子どもたちの姿を通して述べたいと思います。



2 実践事例 「夕やけこやけ」 (第2学年)

本題材は、「夕やけこやけ」から感じ取った曲想を基に、歌詞の表す情景や気持ちから曲に合う歌い方を考え、歌唱活動に取り組む学習です。「夕やけこやけ」は、曲想や歌詞から美しい情景を感じ取ることができる曲です。しかし、子どもたちは鐘の音を聴いたり、夕日の美しさに浸ったりする経験が少なく、歌詞の表す情景や気持ちを感じ取って歌うことに難しさを感じました。そのため、歌唱活動の中に、鑑賞を取り入れることで、曲に合う歌い方で歌うことができるのではないかと考え、実践しました。

	夕やけこやけ	中村 雨紅	作詞
	草川 信	作曲	作曲
一	夕やけこやけで 日がくれて 山の おてらの かねがなる おてて つないで みな かえろ からすと いっしょに かえりましょう		
二	子どもが かえった あとからは まるい 大きな お月さま 小とりが ゆめを 見る ころは 空には きらきら 金のほし		

(1) 歌詞の表す情景や気持ちを感じ取って歌う【第1時の学び】

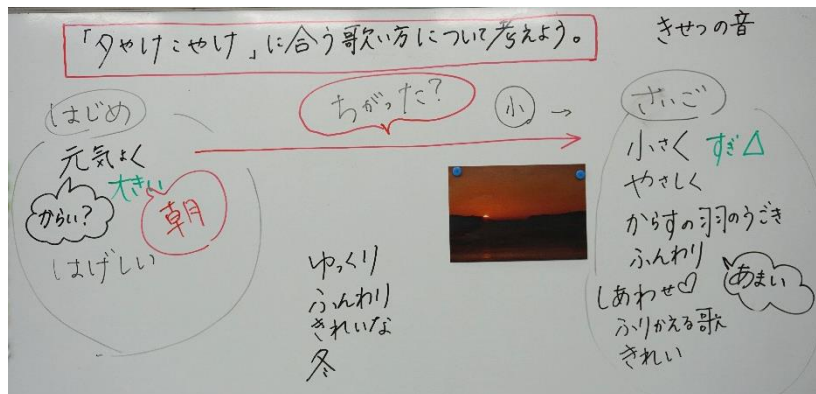
子どもたちは、「夕やけこやけ」と出会い、「手をつないで帰るって、楽しそうな感じがするね。」「そらにはきらきら金の星って、とってもきれいなんだろうな。」などと、歌詞の内容に着目する発言がありました。日頃から、音楽に合わせて自然と体が動かし、音楽を楽しんでいることもあり、そのことから、歌詞に合わせて、自然と体を動かしながら歌う姿が見られました。歌声や体の動かし方を基に、歌詞の表す情景や気持ちを問うと、「歌詞にもあるように、みんなと手をつないで歌ったら、とても楽しかったよ。」「少し激しすぎるかもしれないけど、夕やけみたいに、明るく元気よく歌ったよ。」などの発言がありました。



体の動かし方を話し合う様子

(2) 感じ取った曲想を基に、歌い方を考える〔第2時の学び〕

第1時の元気よく思いっきり歌う様子から、曲に合う歌い方を目指してほしいと思い、第2時では、オーケストラで演奏された「夕やけこやけ」の鑑賞を行いました。すると、子どもたちの歌声が、優しくなりました。その変化の理由を尋ねてみると、「なんだか、冬みたいな感じがしたから、元気よく歌うのは違うと思ったよ。」「幸せな気持ちになったから、優しく歌ってみたよ。」と、感じた曲想を基に歌い方を工夫している発言がありました。教師の考える歌い方を示すのではなく、感じたことを基に表現方法を工夫させていくことで、子どもたちの主体的に活動に取り組む姿が見られました。また、歌っていく中で、声が小さくなりすぎていることや暗くなりすぎていることに気づき、より「夕やけこやけ」に合う歌い方について考えることができました。



第2時の板書

(3) これまでと今の歌い方を比較し、共通点について考える〔第3時の学び〕

これまで学んできたことを基に、「夕やけこやけ」を歌った後、第1時と第3時の歌唱の様子を聴き比べました。子どもたちは、自分たちの歌声の違いに気づき、とても驚いていました。子どもたちの気づきは以下の通りです。

- ・最初は、叫んでいるような声だけど、今日の声は、とっても優しくてびっくりしたよ。
- ・「夕やけこやけ」のきれいな感じが、少しだけ表すことができている、うれしいな。
- ・声の感じは違うけれど、声が大きくなっているところが同じだったよ。 等

自分たちの歌声の変化に気づいている発言が多い中、数人の子どもたちが1番の「おててつないでみなかえろ」の部分の声が大きくなっているという共通点を見つけました。理由を問い返すと、「音が高くなっているからだと思うよ。」「気持ちを込めて歌いたい部分になっているからかな。」と、発言しました。共通点を考えさせることで、「曲に合う歌い方をもっと意識して歌おう。」という思いをもつ子どもたちの姿が見られました。

3 おわりに

この題材をとおして、感じ取った曲想を基に、歌詞の表す情景や気持ちから表現を工夫する楽しさに気づくとともに、表現する楽しさを見出している姿が多く見られました。「歌うことが苦手」な子どもたちを増やさないためにも、一人ひとりの思いを大切に、一緒に音楽を楽しめるように授業を構想していきたいと思えます。